

# KICK OFF 通信



## 障害者福祉とどう向き合うか Part I

### ◆津久井やまゆり園の爪跡

去る7月26日、戦後最悪の殺傷事件が起きてしまいました。障害者支援施設「やまゆり園」の元職員が、園内に侵入し多数の入所者を刃物で刺し、19人が死亡、27人が負傷するという大惨事を招いたのです。

そもそも本人が精神異常であったことは否定できませんが、「障害の重い者は存在してはいけない」という強い衝動にかられた行為は決して許されるものではありません。しかし、それにも増して、障害者自身が社会のお荷物という風潮をはびこらせてはならない、私たちはこれを肝に銘じる必要があります。

### ◆パラリンピックの意義とは

多くの感動を与えてくれたリオデジャネイロ大会も12日間の熱

戦の末、幕を閉じました。先天的もしくは後天的に障害を抱えてしまったアスリートたちが、それをものともせず正々堂々と戦う姿は、美しくもあり、また神々しいものでした。

申し上げるまでもなく、パラリンピックの理念は「健常者および障害者問わず、互いに人格と能力を尊重し、支え合う」とあります。従来より、障害者は社会的な弱者として支えられる側と捉われがちですが、まさに共生社会を形成する一員であることを相互に自覚するときでしょう。

### ◆障害者総合支援法が意味するもの

民主党政権当時、問題多き「障害者自立支援法」を廃止として、新たな形で「障害者総合支援法」をスタートさせました。そして、

5月から改正法が施行されております。障害者自らの望む地域生活を営むことができるよう、支援の拡充を図ったとあります。しかし、残念ながら財源の問題もあり、本来求められている姿には程遠いのが現状です。

かつてから、障害者福祉に関しましては、制定されるべき「骨格提言」というものが存在します。今回の法改正もこれに沿って進められるべきでしたが、支援サービスメニューや運用面の一部改善に留まったため、現場における自立支援とはかなり距離がある内容となっております。

今後、AI(人工知能)の時代が加速度的なスピードで到来するでしょう。その時は、もはや健常とか障害とかそんな垣根はなく、互いに社会の発展に尽くす、役割と使命が与えられると思われれます。私は、これを目指す所存です。

### 【プロフィール】

- 昭和37年 7月28日生まれ  
神奈川県立湘南高校・慶応義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に...
- 平成 4年 「税は政治なり」との思いで始めた税理士試験に合格
- 平成 7年 県議会議員初当選～平成19年まで連続3期
- 平成19年 第21回 参議院議員選挙 当選  
予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任
- 平成26年 第47回 衆議院議員選挙 当選  
維新の党・税制調査会事務局長
- 平成28年 民進党結成に参画  
国土交通委員会&沖縄・北方領土特別委員会の両理事

# 水戸まさし



衆議院議員／神奈川県第5区(戸塚・泉・瀬谷)総支部長